

佐野短期大学シラバス2013

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
介護の基本Ⅳ rehabilitation		2年	前期	水曜日・5時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (介護福祉選択必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
医療・介護原理・実習事前・事後指導などの教育科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護福祉士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
河野克彦		講師室	別途指示する	授業中に指示します
授業の概要				
(1) リハビリテーションの理念と定義に関する基本 (2) リハビリテーションの各分野と実施体制 (3) リハビリテーションの実施方法 (認知証・脳血管障害・虚弱高齢者などのリハビリテーション) (4) 障害者の自立と社会環境整備 の4つの事項を主たる授業内容とし、介護福祉士という立場・役割の理解を図る。				
授業の到達目標				
①リハビリテーションの理念と基本原則、新しい動向、正しい知識についても理解できるようにする。 ②障害とその影響について理解できるようにする。 ③リハビリテーションの展開過程や、自立支援の基本がわかるようにする。				
授業の方法				
基本は板書を中心とした講義形式で行うが、コミュニケーションの取り方、実際の接し方など、臨床に則した内容で具体的にリハビリテーションを理解できるようにし、介護福祉士の役割の理解を深める。				
学習の成果				
①リハビリテーションという言葉の本当の意味、内容を理解することができる。 ②介護に必要な障害の知識 (認知証・脳血管障害・虚弱高齢者など) を理解することができる。 ③リハビリテーションの中での介護福祉士の立場、役割を理解することができる。 ④患者、利用者の医療～介護・福祉への流れを理解することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	introduction これからの授業の説明			
第2回目	リハビリテーションの理念			
第3回目	リハビリテーションの目的			
第4回目	リハビリテーションの範囲・対象			
第5回目	障害の概念			
第6回目	リハビリテーション医療の流れ			

第7回目	リハビリテーション医療の組織	
第8回目	ADL（日常生活活動）とQOL（生命の質）	
第9回目	リハビリテーションの方法Ⅰ（脳血管障害）	
第10回目	リハビリテーションの方法Ⅱ（精神障害：認知証）	
第11回目	リハビリテーションの方法Ⅲ（虚弱高齢者）	
第12回目	施設におけるリハビリテーション	
第13回目	地域におけるリハビリテーション	
第14回目	福祉用具と嚥装具	
第15回目	定期試験と解説・まとめ	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業で使われる教材を準備して臨んでいるか。時間通りに準備して、授業を受ける状態にあるか。居眠りや度を越えた雑談など、授業の妨げになるような行動を取っていないか。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験	70%	リハビリテーションの正しい知識を持ち合わせているか、リハビリテーションにおいて介護福祉士として最低限の知識を持ち合わせているかどうかの判断をする。
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
「学びやすいリハビリテーション論」 授業担当者からの資料		
履修上の心得・ルール		
「授業への参加態度」に準ずる。飲食物の持ち込みは禁止する。携帯電話の使用は見つけ次第退出を命じる。途中退出は原則禁止とする。		